

企業ニュース 東海旅客鉄道

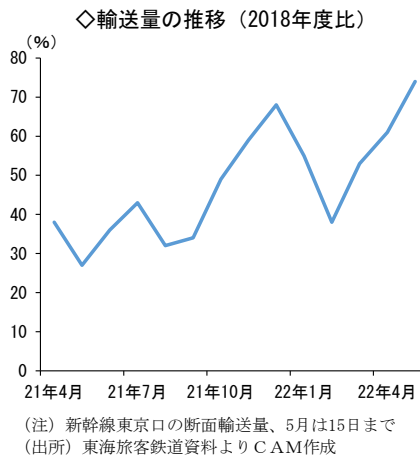
(東証プライム: 9022) <https://jr-central.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

東海道新幹線が収益の柱

1987年、国鉄の分割民営化により設立。東京、名古屋、大阪を結ぶ東海道新幹線、東海地域の在来線など鉄道輸送を担っており、運輸収入の約9割を東海道新幹線が占める(22.3期)。また、鉄道との相乗効果が期待できる流通や不動産といった関連事業も展開している。22.3期の売上高構成比は、運輸業76%、流通業10%、不動産業4%、ホテル・サービス業3%、鉄道車両等製造業5%、その他2%。

コロナ禍での中長距離輸送の需要急減により業績が大きく落ち込んだが、足元の輸送量には回復傾向が見られる。また、ICT(情報通信技術)を活用した効率的な業務執行体制構築を進めるなど業務改革にも取り組んでおり、この効果も期待できよう。



足元の輸送量は順調に回復

22.3期の連結業績は、売上高が9,351億円、前期比14%増、営業利益が17億円、同1,865億円増(前期は1,848億円の赤字)。第4四半期(1-3月)のオミクロン株感染拡大により運輸収入が想定を下回ったため、売上高、各利益は計画未達となったものの、グループ全体で費用抑制を徹底したことにより営業黒字を確保した。

23.3期の通期会社計画は、売上高が1兆3,320億円、前期比42%増、営業利益が2,900億円、同170倍。新型コロナ対策が進む中で経済活動が活性化していくことを前提とし、運輸収入はコロナ禍前の2018年度比73%を想定(第1四半期が同60%、第2四半期が同70%、第3四半期および第4四半期が同80%)。新幹線の東京口断面輸送量は、4月が2018年度同月比61%、5月(15日まで)が同74%と、会社想定を上回るペースで回復している。鉄道利用者数は感染状況に左右されるが、影響は徐々に薄れつつある。また、今期はグループ全体で660億円のコスト削減を計画しており、内50億円は業務改革の効果を見込んでいる。

[株価動向・投資判断]

リオープンング銘柄として注目。輸送量回復と併せて、経営体力再強化の取り組みによる中長期の収益改善にも期待したい。

<9022 JR東海 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
21.3	823,517 (▲55)	▲184,751 (-)	▲262,064 (-)	▲201,554 (-)	▲1,025.5	130.00
22.3	935,139 (▲14)	1,708 (-)	▲67,299 (-)	▲51,928 (-)	▲263.9	130.00
23.3 予	1,332,000 (▲42)	290,000 (16.879)	217,000 (-)	146,000 (-)	741.9	130.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2022/5/13)	16,480 円
年初来高値(高値日)	17,110 円(22/5/6)
同 安値(安値日)	14,525 円(22/1/14)
予想 P E R (23.3 予)	22.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	18,110.2 円
P B R	0.91 倍
予想配当利回り	0.79 %
(1株当たり配当金130.00円)	
R O E (22.3)	▲1.4 %
発行済み株式数	20,600 万株